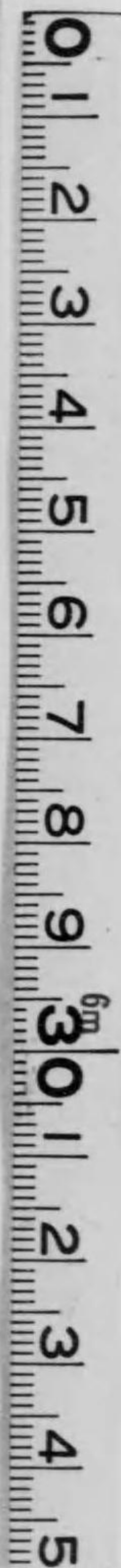


11

526



龜井茲矩傳

序卷

始





茲
矩
傳

同
家
寄
贈
本



序

明治四十五年二月二十七日距慶長十七年家
武州捐館舍之日凡三百載茲常將祭之先使舊藩
士等撰其行實與事者七人曰森林太郎曰田中榮
秀曰佐伯利磨曰佐伯常磨曰宮崎幸磨曰加部巖
夫曰澄川正彌而宮崎屬稿森校閱之自明治四十
三年至大正八年凡十閱歲而成乃繕寫三本一獻
諸宮內省圖書寮一紙諸帝國圖書館一藏諸家此
書雖不成於祭之日而發端于祭矣子孫其念之

大正九年五月

伯爵龜井茲常識

龜井茲矩傳 序卷

例言

一本書ハ贈從三位龜井茲矩の事蹟を纂輯せるものなり、通編編年記録體トシテ、傳説の異同、強ク編者の私意を加へず、諸書の原文を録存シテ、考據の備へ以テ後ハ識者ヲ俟ツ。

一今茲矩の祖先を叙する也、富士名義綱の事蹟殊ニ詳密あり、是れ茲矩生涯遺徳を發揚せんことを期したること、其の遺訓ハ明徴あれはなり、然るハ義綱の事蹟古記或ハ粗密異同あり、從來學者の憑據ト若ク所持ハ水藩の史編席の船上ト幸在るハ、其の言實ト之を啓ク

と論定せり、此の一辞以て義綱の志志を百世
小頭揚るる小足れり、

一 尼子氏ハ茲矩曾祖父湯泰敏以來仕事する所、
蓋主家の興亡ハ亦其の家乃浮沈小関在、義久
家國を亡いハ、茲矩幼時の事小係ると雖も、
特小引證を叙列し、其の所由を明小在、

一 尼子勝久ハ新宮黨の出小し、茲矩山中幸盛
と共に奉じ、主と在る所、而も新宮黨の盛衰
ハ、則ち尼子氏の興廢小関係すること、類る著
大なりと為在、是れ詳叙し、繁を厭ハさる所
以なり、

一 山中幸盛立原久綱ハ、並小勝久股肱の臣小し

と、尼子氏の為め小終始其の節を全うせり、而
し、幸盛ハ茲矩の義兄たり、久綱ハ幸盛の叔
父たり、特小姻戚の縁因有るのみならず、其の
行事自らの相連繫在、故小山中立原二氏の事蹟
を附記在、

一 亀井氏ハ茲矩の姻戚たり、而し、山中幸盛一
旦亀井秀綱の後を承く、茲矩更小幸盛の名籍
を襲ぎ、其の氏を稱在、蓋し戰國の習俗、猶宇
喜田氏小し、羽柴氏を冒し、毛利氏小し、松
平氏を冒在、不如此、毫も怪む小足らざるあり、
然りと雖も、秀綱の亂既小絶滅し、傳らば、而
も亀井氏ハ尼子氏の重臣たり、故小安綱以來

の史實を徴し、其の名門忠士たりし概概を叙列す。

- 一 凡事蹟の概要を概記し、大綱と爲し、其の引據を叙列するハ、皆本文より一字を低下す。
- 一 凡引證を叙列するハ、編者耳目の及所不浪る、故に差誤漏遺極めり多きを知る、博識君子の示教を俟ち、他日將に之を補正せんとは。
- 一 傳説異同あり、處に断定し難きものハ、編者の按を記註し、○を附し、原書の按と區別す。
- 一 事實を考ふるの資料と爲すに足れりと思惟する、地圖文書等ハ縮字し、其の記事の間の挿入す。

- 一 茲に龜後祭祀等ハ、関在る事項ハ、皆後ハ附録し、贈位申告祭を以て完結と爲す。
- 一 別ハ年譜を作り、之を巻尾ハ附す。
- 一 系譜ハ、龜井家傳なるものハ、底本と爲し、大系圖、武家系圖、其の他諸書ハ、参考し、之を編成し、特に巻首ハ掲げ、以て参考ニ資す。
- 一 本書引用書目の大概ハ、左の如し。

龜井家譜

龜井家寛永系圖

龜井家記

龜井記

龜井家由来

龜井家古文書

茲に公御武印書

御家諸事之覺

琉球公傳

太平記

梅松論

櫻雲記

名和氏紀事

新續古事談

兼好傳考證

信長公記

豐臣秀吉譜

南菴太閤記

真書太閤記

豐鑑

陰德太平記

雲陽軍實記

伯耆卷

船上錄

南山巡狩錄

富士名義細公

中國治亂記

總見記

義隆後覺

太閤真蹟記

繪本太閤記

繪本豐臣勲功記

後太平記

出雲私史

雲州軍話

吉田物語

毛利元就記

毛利譜

八ヶ國分限帳

上月城

石見外記

立原久綱傳

柴田退治記

江北記

李中武全書亂中日記

豐太閤征外新史

安西軍策

溫故私記

三光藏玉鈔

尼子義久分限帳

出雲古城主書

本朝古今烈女傳

山中幸盛傳

山中氏祖祠記

傳文虎環

本朝武家諸姓分脈系圖

混同秘策

續武家閑談

白石紳書

故花卷備忘錄

朝鮮軍談實錄

豐太因之雄圖

閑原軍記大成

武德安民記

慶元通鑑

德川傳記

本朝武林傳

本朝通鑑

武切雜記

藩翰譜

寬政重修諸家譜

扶桑水年錄

征韓偉績

高麗八人數渡海船番帳

武德編年集成

三河後風土記

德川實記

武家高名記

江源武鑑

武野燭談

駿府記

義演准后日記

田宮物語

三百諸侯

息榮錄

落穂集

兵家茶話

良將達德抄

諸家深秘錄

因幡誌

伯耆國境村誌

因伯地理誌

因州道中記

當代記

吉見記

諸國廢城考

鶴の毛衣

農政座右

因園地方起源

常山紀談

因幡民談記

伯耆誌

因伯紀要

因州雜記

勝見名跡誌

鹿野筆繪

鹿野故事談

八頭郡誌稿

日野郡誌

因府錄

島城

中私都村郷土史

但馬雜誌

津和野百景圖說

島根縣紀要

美濃郡書

雍州府志

出雲古城主書

大阪市史

澄川正彌踏査聞見誌

鈴木謾錄

承應江戸圖

嘉永收江戸切繪圖

安國寺大觀

安國寺過去帳

少林山讓傳寺記

須知文孝師談

弁盛寺過去帳

武靈社之碑

墓所集覽

日光社棟札及社記

田中覺兵衛由來書

杉山雅知手記

古川治平文書

加藤鯉膳隨筆

節山隨筆

雨後月

佐伯利 蟻の藩属

竹房治 乙面白

鵜淵寺文書

史徵墨寶考證

高崎亀井家由緒

多胡主水復歷

多胡家由緒

多胡氏文書

牧氏由緒

牧氏文書

片寄氏由緒

加藤系圖

多賀氏由緒
 多賀氏文書
 高山氏文書
 小山私記
 硯堂叢書
 大系圖
 武家大系圖
 續群書類從
 大日本史料
 皇朝史略
 齋桓問對
 三才圖繪

草刈氏家系
 大野氏覺書
 小原氏系圖并文書
 澄川正直従用覺書
 朶雲箋帖
 諸家大系圖
 群書類從
 大日本史
 野史
 日本外史
 國史眼
 江戸名所圖繪

西洋記聞

國史大辭典

笹川臨山中庵之助

一本書の編纂ハ伯耆龜井家の囑託ニ依リ委員
 七置き文學博士森林太郎を委員長と爲シ田
 中紫香佐伯利齋宮崎幸齋佐伯常齋を委員と
 爲ス但其の振撥筆録ハ一小宮崎幸齋の手小
 成リ特小澄川正彌の補正在る所多シ加部嚴
 夫七亦與ス其の刪定ハ各委員之小任じ委員
 長の校閲を經く定本と爲ス

大正二年十一月

編者識

龜井茲矩傳

目録

第一卷

茲矩氏名

茲矩世系

出雲國地頭職

湯氏を稱す

富士名義綱の勤王

義綱戦死

義綱遺髪ノ碑

祖父惟宗出雲七人衆の一

第二卷

茲經の父母

茲經誕生

多胡辰敬

辰敬遺訓

茅三卷

父永綱須佐城に住す

尼子義久毛利氏に降る

山中幸盛

立原久綱

茅四卷

尼子勝久

尼子義略系

幸盛勝久を奉り之月山城を攻む利あり

父永綱戦死茲經孤とある

茅五卷

幸盛降り降る既而一之脱去之岩屋寺に入る

茲經因情に抵り井村素安に頼る

井村の茶園

茲經名字の鼻に下居す

山中幸盛因情浦富桐山城に居る

茲經幸盛と相結托す

幸盛山名豊國を奨め之較臣武田高信を討つ

幸盛瓢山城に移る

鳥取の八朝つぶれ

山名豊國鳥取城に入り勝久を二の丸に置く

豊國武田高信を誅す

吉川元春父子因幡を徇ふ山名禪高質子を出す

幸盛京師に入り且尋之勝久を將と爲く復れ因幡不入る

幸盛因幡十三城を下す

第六卷

幸盛大坪一之と鳥取附近に戦ふ利ありず

幸盛大坪一之が和部城を攻む茲矩奮戦とく傷く

茲矩矢部行綱を斬る

幸盛茲矩が勇を褒め雲州を恢復せしめ者獨斯人ありといふ

茲矩武田源三郎と保小鹿野城を守り大坪一之と戦ふ

幸盛養女を茲矩の妻せ龜井氏を嗣ふ

龜井氏の徽號

山中幸盛一旦龜井氏を冒す、事實

長子鬼太郎

京都黒谷英樹院の墓

伯州境龜井神社

幸盛復に鳥取城を取る

大坪一之私部城を棄て、藝州を奪る
幸盛若櫻鬼の城を取る
茲經奮戦して小畑海城を抜く
荒神山落城
草刈重繼を野城を攻む茲經用水の利を失ひ
城を火にして却く

第七卷

山名豊國勝久幸盛の背きり毛利氏に属す
茲經將として私部城を守り
茲經私部城を圍き若櫻城に入る
森脇久仍と香川春繼の連歌
吉川元春若櫻城を攻む勝久幸盛等城を圍き

之進石

幸盛織田信長の属す
茲經紀州雜賀の役に従ふ
茲經江州管領義秀を訪ひ宗家系譜金泥の卷
記入を請ふ
幸盛川合秀武と志貴山城を闘ふ茲經幸盛を
助け秀武を討つ
幸盛月俸を丹波叔井郷に賜ひ光秀刀を茲經
に贈る
幸盛羽柴秀吉に属す
幸盛上月城を取る
幸盛夜襲して真壁治時の軍を敗る

有盛秀吉の命を奉り、姫路に還る

有盛、茲、延、秀、吉、に、従、ひ、復、た、攻、め、り、上、月、城、を

陥、す

上月、地、獄、谷

勝、久、有、盛、上、月、城、を、守、る

立、原、久、綱、山、中、有、盛、上、月、城、守、備、の、得、失、を、論、ず

卷、八

元、春、隆、景、寺、上、月、城、を、圍、む

秀、吉、有、盛、を、授、け、り、茲、延、秀、吉、上、月、城、を、遣、は、す

大、野、十、兵、衛、某、高、橋、孫、四、郎、子、廣

秀、吉、茲、延、不、出、雲、國、を、興、ふ、る、の、約

山、中、有、盛、の、決、心

新、見、國、行、の、力

茲、延、復、命

勝、久、自、刃、を、上、月、城、陥、る

有、盛、死、す

立、原、久、綱、廣、と、ある

久、綱、遁、れ、て、髪、を、削、り、珠、葉、と、號、す

卷、九

茲、延、有、盛、寺、を、建、つ

本、尊、無、量、壽、佛、の、由、來

有、盛、寺、の、扁、額

山、中、有、盛、の、墓

有、盛、寺、の、鐘

元子氏の遺臣茲經小属在

片寄南右衛門重明

幸盛の遺妻高松院の墓

秀吉の慨嘆

因幡國羽柴毛利二氏の手區とある

秀吉鹿野城を攻め山名氏の質子を收む

茲經武田赤井等と俱小鹿野城を守る

山名禪高降り秀吉姫路へ凱旋す

武田源三郎助信事歴

赤井五郎忠家

禪高降り秀吉に投じ

毛利氏の部将牛尾春重鳥取城に入る

秀吉の守兵を磯部鹿野の兩城に集合す

杉原土圍

盛重荒神

第十卷

牛尾春重桐山城を攻め之克せず矢中り之

死す

牛尾春重の墓

元春市川雅樂頭を以て鳥取城に在番せしむ

茲經森下中村等が質子を斬り磯部勢と決戦

す敵を却く

茲經禪高の女を還す

毛利氏吉川經家を以て鳥取城を守らしむ

秀吉使を遣使し、大野城の守備を撤せしむ。
茲に獨り命を奉せり。

秀吉の使臣等、茲に其の勇壯を賞美し、銃砲及黄金を贈り。

茲に益守備を嚴し、其家士を諭し、志を決せしむ。

茲に晨戦、鳥取兵を撃退す。

茲に戦死者の遺骸を抱月寺に葬る。

秀吉、太刀長刀を茲に不賞賜す。

茲に宮古城を攻む。城將田公高家降る。

茲に高家、小銃より砲術を習ふ。

吉川氏宮古城陥落時代の辨

田公高家事歴

茲に敵騎を殲撃す。

秀吉、大軍を以て鳥取に發向す。

秀吉、帝釋山に營す。

細氏一名進上氏

羽衣石城主南條元續、夫に茲に不投す。茲に其等

元續を援け、吉川の守兵を撃つ。城を回收す。

大崎城の戦

秀吉の諸將、鳥取城を包圍す。

吉川經家等、自らも鳥取城陥る。

秀吉、宮部善祥坊を去り、鳥取城を守らしむ。

秀吉出雲國を茲矩小興おこの信長の朱印状
を授く

弓河内村の村長北村六郎左衛門

島取城陥落之際を鹿野城の警戒

茲矩欺さるるコソの城を陥る

古風の舞踏

茲矩荒神山城を陥る

茲矩狗死那城及勝見勝山城を取る

尾子豊後守正久

吉岡将監定勝

定勝秀吉の部将多賀文藏を殺さず瓢の馬標

を奪ふ

茲矩糧道を絶ち防己尾城を陥る

茲矩の家士湯内記敵将稻村七郎五郎を討

つ

足立内藏之介

敵将稻村勘介討死

岩本村の首塚

吉岡定勝の墓

秀吉茲矩の功を賞さるる物を賜ひ且つ氣多一

郡の封寸

氣多郡代官氏名

鹿野城

鹿野町

鹿野笠

恒河

跋提河

因州除地

天正十一年の城主定

秀吉鹿野城に入り尋々元春の馬山の陣と對陣す

秀吉食糧器具を羽衣石岩倉二城に給ふ始路に凱旋す

第十二卷

元春荒神山城に入り茲矩島取城に聲援す秀吉元春の軍を牽制す備中に入り高松城を

攻む

秀吉備中の戦状を茲矩に報するの書

信長弑す遭ひ秀吉毛利と和合諸將と姫路城に會議す

茲矩琉球を討たんと請ふ秀吉之を許さ龜井

琉球守と書おたる團扇を興す

龜井台州守

茲矩因伯境界の事を秀吉に候す

秀吉毛利氏と和平の後も茲矩猶草刈重継と戦ふ

茲矩太刀馬等を秀吉に贈り之を始を祝す秀吉美濃大板の陣營より書を茲矩に贈る

茲龜書を小牧陣營に在る秀吉に贈る

茲龜大坂城の工事を助く

茲龜叙任

茲龜島津征討の軍に從ふ

茲龜黒田長政と俱し軍監となりて豊後時枝

城を修む

茲龜宇都建洲と共に日向根白布を戦す

茲龜の姉

多胡主水真清

茅十三卷

茲龜氣多郡勝見郷日光池を鑿削して三百石の良田を得

日光大明神

二子改龜生る

秀吉茲龜に領分帳地簿を徴し且つ瓶材を録

上也去む

志加奴神社

征韓の役

茲龜巨濟海に戦ふ

征韓軍十軍

茲龜金園扇を遺失す

茲龜蘇川城を取り得いづる城に移る

茲龜東古都城の圍を破る

千々八二城攻撃

茲鉦極張城を守り明韓の兵と戦ひ首を獲る
こと八百餘級

茲鉦巨虎を秀吉に献す

秀吉虎を京都に輸送せし歡覽の供す

松田兵部少輔

茲鉦少イナガン城を攻陥す又敵の番船を捕
獲す

高橋権八郎子清

秀吉秀次茲鉦の勞を慰諭す

茲鉦朝鮮より歸る

大閤伏見に城く茲鉦後を助く

嫡子大昌丸東上せんとす

第十四卷

日野五郎之房

茲鉦郎を大坂に説く

御靈神社

水主助右衛門を拓き夏泊の漁場を開く

牧場を長尾山の周く

下坂本村の豪農助左衛門を利す

茲鉦伯耆日野山の銀塊を茲見す

銀鏡守護神山口神社

滋野鳩林山の金銀

茲鉦の殖林事業

茲鉦心を稼穡に用す

太閤考去荒去遺物を賜ふ
茲經德川家康に謁去白銀を贈る
茲經の女松平忠清に嫁す
茲經二女後藤寛永に嫁す
茲經上杉討伐の軍に從ふ
茲經夜話の席に候也
茲經家康に從ひ江戸に還る
茲經園ヶ原の役小從ふ
茲經池田長吉と俱に長束正家に通りて唇腹
せしむ
茲經大命を奉じ因幡及伯耆中國を徇ふ
茲經の下知状

木下垣屋二氏の遺臣命を奉ふて城を致す
鬼ヶ城
桐山城
宮部氏の遺臣鳥取城に據りて降らば
鳥取城
茲經竹田城主赤松廣英と兵を合せし鳥取
城を攻む
茲經宮部の萬臣田中九助を捕へて之を斬
る
又鹿野町の砦屋を斬る
城兵多賀三郎兵衛勇戦
柴田半四郎戦死

田中考右衛門と一城兵を論旨一城と
一也

茲程因伯二州鎮撫の状を家康に復命也

赤松廣末屠腹

用瀨城主磯部兵部大輔

因幡國郡割

茲程の高草一郡を加へ賜ふ

美十五卷

鹿野所月行使日行使の校

江戸櫻田新橋の邸を賜ふ

茲程殖産興業の事に従ふ

高草郡加路村と池田長吉領土袋河原村と

交換を新小切袋村を置く

智頭川を堰入に大井堤を作り高草郡の田

地を灌漑也

茲程池田長吉と千代川の流域を争ふ

亀井堤

茲程湖山の池を鑿削也

池底より古鐘を發掘也

庶子鈴木八郎左衛門

氣多高草の郡界を定め新田を開き、雁津村
を置く

石分阪

氣多郡下澤田村を置く

湯村切通

俣の泊

鶴見夜

鶴田

茶樹を玉川村に植す

酒津

亀井家の政所

亀井殿

千代川の水勢を利用する土砂を排除す

武蔵川

亀井没止

茲に抄紙製蠟の業を奨む

又朝鮮の柳樹を移植する人參を栽培す

氣多郡湯村温泉の地租を免す

鶯湯

姫石

石面の筆跡

高草郡湯の郷

株湯

亀井殿湯

船法度條目

茲に職を勵む農工を褒む

猪を撲つ壯夫を賞す

茲に長者を恤む

三上兵庫頭の遺子

安富助兵衛盛茂

三刀谷監物孝和

茲徑鷺崎神社を燬滅す

茲徑下知状

嗣子改徑鷺崎神社を再建す

嗣子改徑叙任

駿府築城の役を謀せらる

西洋渡航の朱印を受く

西洋渡航海船カビタニ多賀長兵衛

多賀長兵衛の事歴

茲徑時服を徳川幕府に献じ

茲徑致仕改徑襲封

松平康重の女を改徑小妻とす

伯耆久米川村二郡の収五千石を改徑に賜

ふ

暹羅渡航の朱印を受く

総奉行庶子鈴木八郎左衛門

握淳那書翰

伊達改宗小生麿香を贈る

唐木造小座敷

驢馬野牛を湖山の青島に放養す

外國種の生姜を高草郡長板に栽ふ茶種を

鹿野近邊に播く

第十六卷

茲經商船を遣り書を大沅國王に致す

内裏造營の工役を課せらる

茲經家康に駿府に謁し銀及鉄砲を献す

伏見の邸延焼

茲經神佛を尊崇す

加知禰神社

麻裡小茲經の等跡

八幡宮

神崎神社

惠比須島辨天島

松上神社

賀露神社

日吉神社

白兔神社

觀音寺

雲龍寺

願正寺

讓傳寺

大龍院

三光院

茲經の藝術

劍術

砲術

文藻

詠歌

禪學

書

畫

遊園

茶道

圍棋

五十石以上の土分

祿券の朱印

茲鉅訓諭

茲鉅折廻

茲鉅卒去

茲鉅墓所

茲鉅五十回忌辰

茲鉅肖像

寺盛百身忌法會

茲鉅百回忌辰

茲鉅百五十回忌辰

茅十七卷

武茲鉅靈社創建

山中寺盛二百身法會

茲鉅頌德碑

茲鉅二百身回法會

武靈社鎮座五十年祭

石見國也智郡日貫村寶光寺道月公靈牌堂
茲距二百五十年田法會

武靈社改築元武社と改稱す

元武社二百五十年大祭

神寶

大祭歌會

楠公及元武神靈と藩學養老館に祭る

祖先の祭祀

元武大明神と元武大神と改稱す

慶藩の際元武社及歴代墳墓の保管を舊藩士

に托す

善時雨神社と改稱郷社に列せられ北尋いに津

和野神社と改め縣社に列せらる

第十八卷

縣社津和野神社三百年大祭

亀井伯耆郎茲距滿三百年大祭

茲距贈位宣下

津和野町に於ける靈廟祭

讓傳寺周基道月神靈へ光武院の號を謚る

永明寺に於ける武州公三百年大遠忌

策命使

策命及位記

三百年と贈位との墓前祝祭

讓傳寺法會

日光池碑

家廟靈殿贈位奉告祭

附録

茲矩身譜

漢文茲矩傳

龜井茲矩傳

龜井茲矩の人物

茅十九卷 (亀井政矩傳茅一卷)

龜井政矩傳

政矩生誕

政矩大段小上白

政矩小五千石を賜ふ

父茲矩卒に其の後を嗣ぐ

多胡真清政務補佐を命せらる

大段出陣

男經矩生る

大段後武功

政矩賜饗を受く

熱海小浴治す

下山神祠の再興

下総守領地の管理

津和野移封

諸士約束の條項

判物格護

稻庭城主等を津和野に保留す

二子茲政生る

茅二十卷(寛井改征傳茅二卷)

朝鮮船を討つ

幕使の警固

改征移封を企つ

勵精治を圖る

改征卒す

改征小傳

寛井系譜

光孝天皇茅七皇子 御母 皇后班子女王

宇多天皇 御諱 聖曆



仁和三年丁未十一月十七日即位同四年戊申
十一月二十二日大嘗會寛平九年丁巳七月三
日讓于皇太子
元年辛卯七月十九日崩于仁和寺同八月
五日荼毘于大内山聖壽六十五

敦實親王 八條宮式部卿一尚

寛平四年壬子正月朔旦生同七年三月親王宣
下延喜七年元服此日叙三尚任中務卿後遷式

部卿進一苗天慶二年聽輦車入出于宮中天曆
四年二月三日出家法名覺真住仁和寺
康保四年丁卯三月二日薨壽七十六後世配祀
佐々木宮茅四殿大正日康保三年二月二日

寬朝

廣澤法務大僧正法印東寺一長者
母本院左大臣藤原時平女

長德四年戊戌六月十二日遷化于廣澤遍照寺

壽八十四

雅

信一條入道左大臣兼皇太子傅從一位
母同上

延喜二十年庚辰七月生承平三年十二月二十
四日昇殿同六年正月七日叙從四位下同年十
二月朔日賜源朝臣姓天慶元年十二月十四日

任侍從同二年三月二十九日任右近衛中將同
八年正月十一日叙從四位上天曆二年二月十
九日任藏人頭同五年正月三十日任參議同九
年十一月二十二日叙正四位下天德二年閏七
月二十八日任治部卿應和二年正月七日叙從
三位康保四年五月十五日兼任佐兵督安和元
年十一月十四日兼攝磨推守止卿止督同月二
十三日叙正三位同二年十一月十一日兼左衛
門督天祿元年正月二十七日任權中納言同年
八月五日任中納言兼奧羽按察使同三年正月
二十四日任大納言使如故貞元二年正月七日
叙從二位同年四月二十四日任右大臣天元二

年三月二十八日叙正二位永觀二年八月二十
 七日止傳又及萬皇太子傳同年十月十日叙從
 一位辭退寬和二年六月二十三日止傳同年七
 月十六日萬皇太子傳同月二十三日叙從一位
 辭退永延元年正月七日叙從一位聽琴車永祚
 元年七月聽牛車正曆四年七月二十八日出家
 法名覺實同年同月二十九日薨壽七十四贈正
 一位

大系齒曰歌人郢曲笙和琴鞠長新古今作者正
 應五年二月依辭職勒許同七月二十六日出家
 同二十九日薨七十歲法名覺實

道方 推中依言民部卿正二位
母西宮左大臣源高明女

重信 六位依皇太子傳正一位
母同上

延喜二十二年生承
 平六年十二月賜姓
 源朝臣
 長德元年乙未五月
 八日薨壽七十四贈
 正一位

致方 右大臣正四位下
母同上
 宣方 左近衛中将正四位上
母同上
 相方 左中將正四位下
母同上
 乘方 讚岐守正四位下
母同上

寬信 左大臣正四位下
母同上

延長八年生承平六
 年十二月朔日賜姓

憲朝 春少亮後四位上
 祐增 權僧正法印
 雅慶 東大寺別當大僧正法印
建寺一長者

源朝臣

時仲

後小將大藏言從二位
母右大辨源公忠女

長保三年辛巳十二

月晦日薨享年五十

九

濟信

仁和寺大僧正法印東寺一長者
母同上

長延三年庚午六月十

一日化

持義

參議兼大藏卿左大辨正四位下
母大藏言藤原元女

長德四年戊戌七月二十五日卒享年四十八

大系首曰寬仁四年許中事沙門中事始也長德

四年七月二十六日卒四十八歲

通教

大藏頭右大辨從四位上
母同上

長德四年戊戌四月

四日卒

時通

武部大輔右近衛中將從四位上
母中御言藤原賴止女

時兼

左衛少將從五位上
母同上

天元三年十月卒年

十九

時叙

右近衛少將從五位下
母同上

時方

少輔兼左兵衛從五位上
母同上

濟政

讚岐守從四位下
母參議藤原安親女
贈從三位

信時

民部大輔兼備前守從五位下
母同上

惟時

能登守從五位下
母同上

則孝

從五位下
母同上

經相

參河守從四位下
母同上

諸家大系首曰從三位左大辨
大系首曰法長家系

雅通 中宮亮從四位下

通尹 備中權守從五位下

通明 式部丞正六位上

仲舒 大藏少輔從五位上

房山城國安名郡大

時國大摩五郎木木

原村

濟時

右近衛少將從五位下

女子

倫子從一位准三后

女子

法成寺園白道長女北政所賴道及上東門院御母

女子

右大將藤原道綱室左中將兼經母

女子

侍從藤原定時室右中將定方母

清房中宮亮從四位下

信房若狹守正四位下

尊覺推步僧都

濟延推大僧都

經賴

左近衛兼勳藤原長正正三位
母讚岐守淳是賴女

長曆三年乙卯八月

二十四日薨享年五

十五

女子大炊言藤隆國室

女子推中御言藤原資仲室

延壽

大僧正法印
母同上

成賴

左近衛從五位上
母大炊言藤原行成女

大正面從五位下兵衛助
号江國寺

居近江國蒲生郡佐々貴郷

康平七年甲辰七月九日卒享年七十八葬于此

良山

大系苗曰成賴始住江州佐々木六ヶ國之軍兵

從之始取弓箭

女子二條中御言藤原兼隆室備中守兼房右中將定房等母也

女子上東門院女房少將尚

初名... 兵部丞從五位下近江國追捕使
大正西從四位下兵部大輔子志賀三郎
号國光寺

永保元年辛酉十一月三日卒享年六十一

宗賴 初名昌賴
母大... 從五位下

成氏 美濃守從五位下

經方 兵部助從五位下佐木莊下司
大正西四品兵部大輔 号源次大夫
諸家大正西四品兵部大輔 号源光寺

補佐之木宮神主職

永久三年乙未十月十五日卒享年六十二

義尊 初名義國
母... 從六位上

經俊 日野守者
母同上

女子 郁共阿虎女倉大夫局

經貞 日野山太郎
母... 三安堅女

初名... 武藏大正西從五位下近江國追捕使
諸家大正西四品源次大夫兵部大輔
大正西 号長光寺

天承元年辛亥九月十七日卒享年五十

行定 兵部助從五位下
母下野守紀盛宗女

佐之木宮神主
居近江國蒲生郡木

保延四年戊午十一月

月十三日卒享年五

十五

十二

井源太
盛實 淡小井武藏守從五位下

佐之木宮神主

初名... 兵部丞從五位下
母同上

實貞 初名行貞
母... 從五位下

居蒲生郡井之村

後改名重遠

井上五郎
行方但馬守從五位下
初名行範
實範後上從五位下

初名行俊
家行
受知源三
大夫從五位下

居近江國愛知郡愛
知川村出家法名行
阿

家仲 愛知源三大夫
家次 平井下野推守從五位下
家景 長江筑後推守從五位下
家重 愛知筑前推守從五位下
實家 山崎六郎

居近江國犬上郡山
崎城

初名行中
行範
母 大從五位下

女子

鎮守府將軍藤原秀衡室

行尚 古川源次
定時 真野源三
定平 佐々木源四郎
時家 佐々木源五郎
時信 佐々木舟木大郎

秀義

佐々木源三佐々木莊下司
母 出雲守源義親女

大正齒 兵部丞

弓長命寺

諸家大正齒兵部大輔

保安三年十一月十八日為六條判官源為義猶
子

保元平治之後為義戰敗後移居相模國
元曆元年甲辰七月十九日於伊賀國山田郡平

田城召具赤子五郎義清討取敵九十餘人戰死
 于同所享年七十三贈近江推守
 大系菴曰平治合戰之時源氏十六騎之隨一秀
 義十三歲之時被取養六條判官為義号三郎秀
 義相傳重代太刀鎧軍然保元平治兩度兵革之
 時隨逆義朝合戰軍仍鎌倉右幕下伊豆國在國
 之時非進置子息等而身時令參上是奉公始也
 壽永十九乙巳於何賀國涼平及合戰之時秀義
 自大手責之義清在搦手平氏富田進士家助前
 兵衛家他家清入道平田太郎家繼出羽守信兼
 子息等并忠清法師皆一心秀義一騎懸自戰之
 誅畢于時歲七十三歲也然而凶徒九十餘人討

取也元久元四十六任檢非違使關東五番延尉
 從五位上同二年四月七日依病出家同九月卒

佐之木太郎
 定綱左衛門尉從五位下
 元文二年乙巳四月
 九日卒享年六十四

佐之木山太郎
 廣綱山縣守從五位下
 後鳥羽院下北面
 承久三年六月奉勅
 發行于宇治同年七
 月二日梟首
 佐之木右兵衛尉
 定重同上
 佐之木右衛門尉
 定高同上
 佐之木近江守正五位上
 信綱新田大炊助源義重女
 廣定同左衛門尉從五位下

佐々木三郎
經高 中務丞
母同上

后相模國流谷

承久三年六月奉

勅命参院方同月十

六日自殺於鷺尾

時綱 佐々木帶刀左衛門尉

行綱 何佐七郎左衛門尉

定嚴 常陸守律師

定實 権少僧部

頼定 山中十郎

高重 佐々木左衛門尉

後鳥羽院下北面承

久戰死

高範 佐々木左衛門尉

佐々木三郎
盛綱 左兵衛尉
母同上

后相模國波多野後

移后上野國碓氷郡

磯部郷元曆元年十

二月六日備前藤江

先陣顯功名

建保四年丙子七月

九日卒享年六十六

加北水郎
信實 左兵衛尉從五位下
佐々木中二郎
俊綱 同尉
母同上

佐々木小三郎
盛季 左兵衛尉
母同上

佐々木四郎
盛則 同尉
母同上

高綱 佐々木四郎左衛門尉
母同上

元曆元年東軍上洛

重綱 佐々木水郎
母同上

野木三郎左衛門尉
光綱 出雲守從五位下
母同上

高重 佐々木左衛門尉
母同上

渡宇沼川縣一陣顯
高名建久六年入高
野山出家建保二年
甲戌十一月六日卒
去出雲國意宇郎

佐治本五郎左衛門尉
義清

母法名莊司平重國女

大系首見雲五郎

居相模國大庭村
曆仁二年出家法名建清仁治三年壬寅十月十
八日卒

諸家大系首曰領出雲隱岐兩國也家紋輪造
大系首曰名橋合戰之時依為大場三郎景親聲

奉射石之間依御勅氣平氏追討之後不願拜分
之處合戰七ヶ處懸前其時初隱岐出雲兩國其
外御息多科領之元曆年中木曾追討之時宇治
川橋根一陣因二年六月七日夜半於右幕有下
侍宿直之輩颯札之間出合領之死人二人又傷
同三年五月和因合戰之時懸一陣蒙數ヶ所疵
半死半生

佐治本六郎
嚴秀

母同上

初為僧居近江國蒲
生郡野寺還俗居出

義基 河内源本左衛門尉

義尚 佐々木三郎左衛門尉

義家 佐々木左兵衛尉

泰秀 去因四郎左衛門尉

雲國野義郡吉田院

吉田六郎

能惠少僧部法眼

籠居于高野山

惠性十禪師

女子

井上六郎源實綱室

三位局賴應母

佐々木太郎
政義左衛門尉

母將軍家女房十哲句

正應三年庚寅六月

十七日卒壽八十三

初名昌太水
清政佐々木
佐々木左衛門尉
義明林三郎
母柳左衛門尉

佐々木源三郎左衛門尉
泰清信濃守五位下

母同上

大乳苗 信濃守使從五位上

依兄政義出家遁世鎌倉幕府賜父義清所領衣
皆

建長二年十二月二十九日出家法名心願弘安
十年丁亥六月二十八日卒法名泰覺

佐々木太郎
義重左衛門尉
母大井太郎源朝光女

重泰佐々木馬田太郎
母土屋六郎左衛門尉女
秀義佐々木馬田三郎
母同上
賴重佐々木三郎
母同上
重宗佐々木五郎
女子金子八郎平重忠室

佐々木三郎
清 隱政守從五位下
母同上

嘉元三年乙巳五月
四日戰死相模國鎌
倉享年六十四

清房 佐々木三郎左衛門尉
母大前根上總介藤原長任女
賴清 佐々木三郎左衛門尉從五位下
母同上
宗清 佐々木三郎左衛門尉從五位下
母同上
清忠 隱政守左衛門尉
母同上
女子 正德三郎左衛門尉藤原貞綱室

佐々木三郎
賴泰 堀谷三郎左衛門尉
母葛西伯左守平清親女

辰出雲國神門郡堀
谷永仁六年戊戌八

清高 使隱政守
秀清 信濃守

秀時 堀谷三郎
母
貞清 堀谷三郎左衛門尉從五位下
母

正中三年丙寅三月

道 月十七日平法名覺

二十八日卒

高貞 判官使隱政守

康永二年四月一

日為師直伏誅

時綱 近江四郎

貞泰 近江五郎

泰茂 三田三郎
母近江大郎左衛門尉藤原重綱女
師泰 三田三郎左衛門尉
母同上
秀清 山左五郎
母同上
辰出雲國能義郡山
佐

義泰 三田四郎左衛門尉
母同上

辰出雲國能義郡室田

賴秀 羽田井大郎
母同上
辰出雲國八橋郡羽
田井

田正安二年庚子七月十九日卒法名義覺

宗義高田八郎
母同上
秀春後藤源四郎
母同上
女子吉田三郎左衛門尉源芳信室
女子信濃九郎左衛門尉源義信室

茂清佐々木五郎左衛門尉
母同上
正應五年壬辰正月二十九日卒法名覺清

宗茂重松信濃守
母三井藤左衛門尉藤原宗忠室
扶清西時五郎
母同上
宗綱南浦加賀守
母同上
女子相田廿六郎源模秀室

卒
正中三年三月八日

基頭佐々木五郎
後藤信濃守統五位下
母同上

後藤壹岐守藤原基政
猶子嘉曆三年戊辰二月十八日卒

賴清佐々木七郎左衛門尉
母同上

居出雲國意宇郡湯村德治二年丁未十月十六日卒法名十伴

顯清後藤豐前守
嘉元三年五月四日
討死
基真後藤下野守
顯真後藤上野介

女子相田廿六郎源模秀次室
女子佐々木十郎兵衛尉源泰信室

宗泰 佐之本八郎左衛門尉
 母新山八郎勝新敏忠女
 延應三年庚戌七月
 十五日卒法名覺念

宗義高岡八郎
 實之由田四郎左衛門尉義泰五
 女 富田佐渡守源師泰室
 貞泰女乃貞母

佐之本九郎
 義信 母同上
 居出雲國神門郡古
 志正和元年壬子十
 一月十八日卒法名

宗信 古志二郎左衛門尉
 母幸乃四郎橋義慎女
 正中三年三月二十
 九日出家
 貞義 母幸乃渡考次郎
 宗秀 母三本四郎
 貞信 母佐之本三郎左衛門尉
 信澄 母乃本五郎左衛門尉
 居出雲國意守郡乃

本佛

佐之本十郎
 清村 母岡九郎源重勝女
 清實 母因幡房堅者
 佐之本余二郎
 行村 母同上
 安夏左衛門尉景養子
 女子 桃才三郎源賴直室貞經等母
 女子 東六郎左衛門尉室
 女子 高橋三右衛門大宛永章室

本

通玄 出雲國安國寺住職
 茂村 駒崎三郎左衛門尉
 佐之本二郎兵衛尉
 貞宗 隱岐守從五位下

宗清 佐々木二郎

正平十二年丁酉二月十五日卒享年八十七法名良信

雅清 佐々木三郎左衛門尉

貞清 佐々木四郎左衛門尉

延元二年十月十二

日戰死

女子 法名兵庫助手重信室

女子 佐々木五郎源信室室

泰信 佐々木十郎左衛門尉

大平苗十郎左衛門尉

後住出雲國意守郡元享二年壬戌六月十三日卒享年五十一

信秀 佐々木孝次郎

清秀 佐々木八郎左衛門尉

泰秀 佐々木五郎

貞秀 佐々木源三左衛門尉

義宗 佐々木孫七郎左衛門尉

元弘三年癸酉七月

二十七日戰死於京

都

清重 佐々木次郎左衛門尉

高信 佐々木何豆守

清信 佐々木七郎左衛門尉

居出雲國大原郡佐

世村正中三年戊子

三月二十九日卒法

名十覺

初居公清 佐々木源三

義綱 佐々木五郎左衛門尉

大原苗公清湯源三

後居于意守郡定田士名色院富士名判官建武三

年丙子正月三日戰死於京師享年四十一

賴信 佐々木十郎二郎
母同上

賴方 佐々木六郎兵衛尉

元弘三年癸酉五月九日於近江國菴場清高同

時戰死

貞推 佐々木次郎兵衛尉
母同上

重利 佐々木湯二郎左衛門尉

貞盛 佐々木八郎

女子阿曾孫八郎藤原行綱室

女子佐々木彦次郎源信秀室

公綱 佐々木高士及源三左衛門尉
母鎌田藤三藤原具俊女

應安五年壬子十二月五日卒

公明 湯四郎左衛門尉
母同上

高興 湯又四郎

女子津田五郎出雲清長室

女子空田左衛門尉清長貞室厚正子彌直貞母也

信綱 佐々木高士右三郎
母佐藤左衛門尉藤原恒清

氏信 高士右三郎左衛門尉
母作守

屬出雲守護京極治

女子千代國造出雲貞賴室

部大輔高詮主應永

二十三年丙申十月

二十三日卒

政道 佐々木湯與四郎
母同上

諸家大系有曰從將軍義政公賜政子

後居于湯之里

屬出雲守護佐々木高極治部大輔高光主及元

子出羽守持久主

應永三十三年丙午四月五日卒享年五十三
 女子 実道太即出雲蔭明室
 女子 富田四郎左衛門尉源表明室

誠勝 佐々木湯太郎左衛門尉
 母
 永在子八年六月出家法名淨光

道綱 佐々木治部丞
 母吉田小三郎源義茂女
 居大原郡立原村
 是綱 佐々木九郎左衛門尉
 母同上

高忠 湯彦五郎
 母
 承兄誠勝家督

高忠 湯兵部丞
 實舍弟 先誠勝家督
 屬出雲守護尾子刑部大輔持久主

泰通 湯左衛門尉
 母松原八郎 柿本若武女
 久信 湯孫太郎

泰重 湯播磨守
 母同上
本朝武家諸姓命源平賴朝日母吉見三河守
 屬尾子刑部大輔清定主同民部少輔經久主享
 祿四年辛卯閏五月十八日卒壽八十七

泰守 湯左近江守
 母進左近將監紀義盛女
 泰胤 湯兵部少輔
 泰平 安田五郎

居能美郡安田邑

泰敏 湯美作守
 母同上

屬尼子伊豫守經久主

泰盛

湯左馬助
母大草第四郎次郎女

惟宗

湯信濃守
母

屬尼子伊豫守經久主同民部少輔晴久主天文十四年丑己七月八日卒享年五十三

惟宗元來屬雲州尼子家而度之有功云々
諸家火系齒回雲州七人衆之列也

女子福依次郎左衛門尉藤原宣信室

泰家

湯進正
母

晴成湯左衛門尉

女子龜井能登守德積秀綱室

永綱

湯三郎左衛門尉
母渡邊右馬允源哲女

屬尼子修理大夫晴久主同右衛門督義久主

永祿九年七月尼子氏亡近左衛門尉勝久為主

大永五年乙酉生於出雲國湯庄

永祿十一年戊辰七月十四日戰死於富田月山

城享年四十四法號菩提善譽林居士

參考) 諸家大系齒曰永祿中雲州尼子興毛利

合戰之時始山中筋之助幸盛曰野立原外石加

藤神西神田寺本馬木津森古志宇山横道今川

本多川添森脇秋宅原田寺尾井永綱先陣有之

大徳顯武勇云々

住雲州須佐郷

女子進五郎左衛門尉記成子室

女子小原豐前藤原宗勝室

女子湯水兵衛室

瑞新十郎

貞并武藏守從五位下

贈從三位

母多胡左衛門尉辰義女

永祿九年丙寅三月二十日龜井能登守秀綱戰
死女婿山中康介幸盛襲家名天正二年甲戌四
月茲矩娶幸盛養女時子(實秀綱之女)稱龜井氏
家譜曰茲矩初娶山中康之介幸盛之女為嫡室
蓋山中幸盛之妻者龜井能登守秀綱之女也茲
矩之為室者山中幸盛之女而龜井秀綱之外孫

女即外孫女婚於是用姻家之氏為龜井屬尼子
左衛門尉勝久至尼子氏再滅之後幸豐臣國白
秀吉公及德川將軍家

慶長十七年壬子正月二十六日卒于因幡國氣
多郡鹿野城古_子年五十六葬于鹿野寺內村名字
今鼻法號中山道月

明和五年戊子八月十日建祠在見國津和野謚
武茲矩靈社

社
明治四十三年庚戌八月改稱津和野神社列縣

明治四十五年壬子二月二十六日特旨贈從三
位

某

龜井鬼太郎 系譜鬼丸又曰鬼太郎
母山中鹿介源光盛美良女時子

天正十年早世年甫七

女子

母次室多胡宗治右衛門重盛女

參州吉田城主松平玄蕃源忠清室

新十郎在兵衛佐
政矩

母同上

幼名大昌丸

天正十八年庚寅十一月廿九日生於因州鹿野

元和三年丁巳七月二十日轉封石見國津和野

城賜四萬三千四百石餘

元和五年己未八月十五日卒享年三十葬于山

城國受衣郡東山高臺寺法號悟叟淨慎

女子
母同上

後藤助兵衛藤原光信室

初名經矩
矩政

事大將軍家光公合地三千石

延寶五年丁巳九月九日卒享年六十四

女子
母側室

松平周防守康映臣都筑助大夫重常室

松平周防守康映臣重女
矩政

元和三年丁巳生於江戸櫻田邸

延寶八年庚申十二月十八日卒于津和野享年

六十四葬于津和野永明寺法號聖壽院廓山哉

烈

某國松

朝

初名政直新十郎
藤原正忠養子
母金林出願守治重賴女

延寶七年己未九月二十一日未承家督卒于江

戶享年三十五葬于江戶芝青松寺法益禪性院

一相全無

茲

禮之助
龜井式部
母同上

天和二年壬戌六月二日卒于津和野葬永明寺

女子 薰子

島津飛彈守藤原忠尚室

女子 鶴子

難波參議藤原宗量室

女子 睦子

和州平群郡小倉村教行寺室

女子 林子

和州平群人源康富室

政相

加藤大祐
母

家臣加藤藏人藤原正忠養子

茲

松之助
能登守
藤原正忠養子
母側室水崎氏

享保十六年辛亥五月二十九日卒于津和野葬

于永明寺法鏡竺仙院法山祖應

某

新八郎
早世

家臣加藤八郎左衛門重俊養子

女子 梅子

森川出羽守源俊胤室

眞經 賴母

家臣多胡主水藤原貞武養子

女子 薰子

板倉甲斐守源重寬室

宗清 善法寺僧正石清水別當

山城國石清水別當田中善法寺推僧正要清養

子

享保七年壬寅九月八日遷化年四十八

女子 竹子

柳生備前守菅原俊方室

集仙之助

重之進 賴母

元禄十四年辛巳六月六日承家臣多胡賴母眞

純後尚稱龜井氏

享保十年乙巳十二月六日歿年四十五

女子 早世 母水野出羽守忠周女

女子 久子

叔父茲滿養為子

滿高 龜井八十郎

因幡守茲滿養為子

初名茲治新十郎

長 宗對馬守平義真女

享保十一年丙午六

月四日承家督卒

于江戶葬芝青松寺

法益真龍院齋是玄

珠

改名茲延

滿博 監物初竹之助

龜井宮内權致養子

元文四年己未十二

月四日歿

女子 留字

女子 興字

定好 初名茲辰 龜井興四郎 母同上

菅沼民部源定表 辰 養子

寶曆九年己卯六月九日卒年六十六

某 伊織 母同上 早世

某 采女 初錫之丞 母同上 早世

女子 伴之助 初萬 母同上 早世

女子 龜 母同上 早世

女子 絲 母同上 早世

茲 松之丞 龜井國幡守 從五位下 母同上

元文元年丙辰四月八日卒于清和野享年二十

七葬于永明寺法彌養壽院崇月源光

某 繼之助 母側室 早世

養女 美興子 實井伊掾部頭臣廣瀬卿右衛門侍英女

龜井主殿茲堅室

養女 紋子 實廣島藩士岡田吉太郎女

松平周防守源康豐室

某 五郎
早世

茲 初名八十郎滿高
延 實同姓能登守茲長嫡男

寬保三年二月二十一日以病致仕

寶曆六年丙子四月四日卒于津和野古子年三十
五葬于永明寺法號寬量院仁嶽道智

養女 實同姓能登守茲長女
鳥井何賀守忠存室

茲 初名德藏隱岐守
亂 實同姓能登守茲長嫡男

享保十一年丙午生于江戶寬保二年壬戌九月
廿一日茲延養為子

寶曆二年壬申七月九日卒享年二十八葬于津
和野永明寺法號陽昇院德巖賢祖

養女 實同姓能登守茲長女
養子信濃守茲亂室

明和六年乙丑二月二日卒年三十三葬于江戶
青松寺

女子 利勢
早世

女子 邦
早世 初美喜

養女 實同姓能登守茲長女
實龜井宮内能致女

松平大炊頭源賴多室

矩貞

龜井能登守從五位下、初名吉三郎、實菅沼勲貞源定好男

元文四年十一月二十七日生于江戶寶曆二年

壬申七月茲亂養為子同九月十六日家督

文化十一年甲戌六月十六日卒于江戶享年七

十九(實七十六)葬于芝青松寺法強德祥院淨

雲小海

茲休

龜井道八即初直丸母

明和三年丙戌十二月八日歿于江戶青松寺

法謚玄照院園應常侍

養先能登守矩貞養子

直丸

龜井直八郎、實信濃守茲亂二男

明和三年丙戌十二月八日卒于江戶享年十七

葬于芝青松寺

女子

清子

秋月山城守大藏種徳室

女子

八重

早世

矩賢

初名吉三郎、龜井隱收守從五位下、母嶺崎茂摩守正武女

明和三年丙戌六月五日生于津和野

文政四年辛巳二月二十四日卒于江戶享年六

十一(實五十六)葬于芝青松寺法強賢體院崇隆

泰公朝

茲益安次郎龜井大記

家臣龜井一學茲義養子

享和二年壬戌九月二十六日殁年三十五

某榮之助初榮吉

女子早遊世

女子政子母濱崎氏早世

茲次郎母龜井珪次郎

實兄隱岐守矩賢養子

某祐三郎早世

女子早孝世

某豐次郎早世

茲初名母龜井主行助

龜井熊之丞茲明養子

安政二年乙卯十月二十一日卒年五十三葬于

江戸芝青松寺

女子亮子初叔

舍兄隱岐守矩賢為養女

女子園子

舍兄隱岐守矩賢為養女

女子儲子

舍兄隱岐守矩賢為養女

某祐三郎早世

女子早遊世

女子律子

大村丹後守藤原純昌室

女子上戴子初靜

間部主膳正藤原詮元其室

女子其禊子

菅沼直七郎源定敬室

某其母其下其總守忠啓女其早世

女子其同上早世

茲尚其實舍身承元其範賢之家督

天保元年庚寅十二月二十五日卒于江戸京年

四十八葬于芝青松寺法佛在敬院義實道順

女子令子

相良壹岐守藤原賴之室

養女其實能登守其能真女

龜井熊之丞源茲明室

養女其實能登守其能真女

松平與次郎源清良室

養女其實能登守其能真女

片桐石見守源貞信室

茲其溫其龜井其中務

龜井内膳源茲清養子

文政九年丙戌二月十二日殁年二十二

女子其詩

家臣龜井内膳源茲清室

集北五郎早世

女子慶母阿部豐後守正儀女 早世

女子比呂母同上 早世

珪次郎
茲方龜井能登守從五位下
母阿部豐後守正儀女

弘化三年丙午二月九日卒于江戶享年三十一

(實三十一)葬于芝青松寺法興豐鶴院朝翔玄

空

正守龜井能登守從五位下
母同上

阿部山城守阿部正景養子

女子延子母同上

毛利伊勢守藤原高泰室

女子改母同上 早世

女子改早世

女子監母松平周防守康任女 早世

茲監龜井從二位勳三等
實有馬言吉番頭源賴德二子

文政八年乙酉十月五日生稱格助天保十年四

月二十四日為茲方養子同年六月二十一日家

督同十一年十二月十六日叙從五位下任隱岐

守萬延元年十二月十六日叙從四位下元治元

年五月五日任侍從明治元年二月二十日拜參

與神祇事務局判事同月二十七日拜議定補神

祇事務局補同月四月二十一日任神祇副知

寺同年五月十日任左近衛權中將同二年六月
 二日叙從四位上同月二十四日收籍奉還此日
 任津和野藩知寺同三年九月十三日叙正四位
 同四年六月二十五日乞請免津和野藩知寺同
 月二十七日叙從三位同九年十一月八日讓家
 督於養子茲明同十四年七月十六日叙勳三等賜
 旭日中綬章同十八年三月十七日以特旨叙從
 二位同月二十三日薨于東京小石川丸山第享
 年六十一
 同年同月二十九日葬于南葛飾郡須崎村弘福
 寺域以謚曰勤濟命

養女 統子
實貞龜井勇之助源茲福女

某 龜井功太郎
母家女房 早世

女子 嬰子
母同上 早世

某 龜井學助
母同上 早世

茲命 龜井從五位
實貞源野式部源慈昭五男

明治元年八月十五日為茲監養子同八年五月
 十三日離縁復籍

茲明 龜井從三位勳四等伯爵
實正三位堤哲長三男

文久元年辛酉六月十五日生明治八年六月三
 十日為茲監養子同年七月十五日叙從五位同
 元年十一月八日家督同十年八月留學獨逸國
 同十三年七月歸朝同十七年七月八日授子爵

同年十二月二十六日任侍從試補同十九年十一月
 一月復至獨逸國專修美術學同二十四年十一
 月六日歸朝同二十年十二月二十六日叙正五
 位同二十四年四月二十三日依父茲監勲功特
 陞叙伯爵同年六月十四日叙從四位同二十七
 年十月請從日清役同二十八年一月歸朝同年
 四月再入北清同年五月歸朝同年。
 六月二十九日叙正四位同二十九年七月十七
 日叙勲四等賜瑞寶章同月十八日以特旨叙從
 三位此日薨於東京小石川丸山邸享年三十六
 年一个月葬于南葛飾郡須崎町弘福寺域內謚
 曰愛蘭命

茲常 龜井伯壽

母伊東修理大夫藤原祐相女榮子

明治十七年四月十七日生同十九年八月十

八日襲爵

茲昭 母同上

明治十八年七月二十九日生同十九年十二月

二十八日夭

女子 須賀子

母伊東修理大夫藤原祐相十三女養子

明治二十七年二月九日生

女子 母同上

明治二十八年二月十八日生

女子 母同上

明治三十年一月十一日生

11
21
526

終